

TOKYO たてももの 探訪

124

白百合女子大（調布市）
の構内に、古い木造平屋建

家・菊池家の主屋で、江戸

の邸宅が立つ。昭和時代に静岡県から移築された「めぐみ荘」（旧菊池家住宅主屋）だ。2014年に、国の有形文化財に登録された。

白百合女子大学めぐみ荘

落成年 不明
設計者 不明
所在地 調布市緑ヶ丘1
の25の1



時代後期から明治時代前期にかけて建てられたとされる。1930年頃に薬局の津村順天堂（現・ツムラ）が譲り受け、調布市に移築された。当時は薬用植物園の休憩所として利用されていたという。

その後、石油会社の保養所を経て、65年に同大の所有となった。「めぐみ荘」の名は、「大学の創立に感

謝する」という意味が込められている。66年3月に校舎の建設により再び移築され、現在の場所に落ち着いた。外観を特徴づけているのが、瓦ぶきの屋根だ。建築当初、武家や寺社以外は瓦ぶきの家を建てることは許されなかったが、菊池家は特別に許可を受けたと伝わる。屋根の上には「越屋

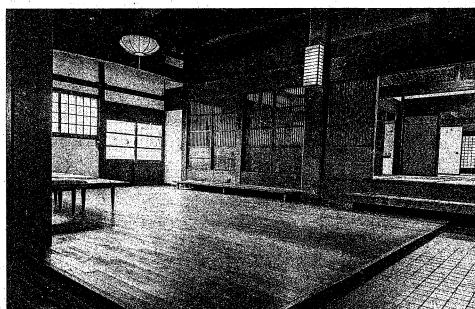
根」と呼ばれる小さな屋根が設けられている。伝統的な民家に見られる構造物で、建物内に光や風を取り込む役割があるという。

土間から屋内に入ると、まず目に入るのが黒光りする2本の大黒柱だ。見上げると、太い梁が何本もかけられている。あまりの太さに「米俵を載せても下からは見えない」と言われたのもうなずける。

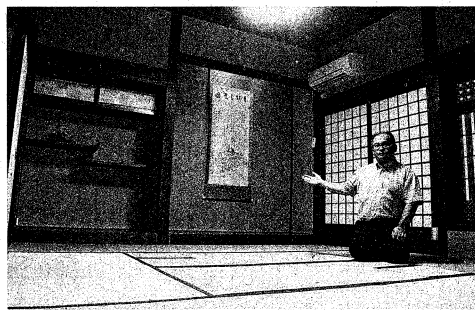
同大総務部長の嶋崎慎太郎さん(51)は「都心では、昔ながらの民家は珍しい。学生だけでなく、地域の人たちも利用できるような仕掛けを考え、末永く愛される建物にしていきたい」と語る。（井上勇人）



瓦ぶき屋根 名家の邸宅



土間の左右には大きな大黒柱が立つ



床の間のある和室。茶道部屋華道部が利用している